

私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください。

イザヤ51:1

2014(26)年 週 報

1月12日
第2聖日
第3334号

「家の教会」

聖
言

またその家の教会によろしく伝えてください。私の愛するエパネトによろしく。この人はアジャでキリストを信じる最初の人です。ローマ16:5

永遠の宝

「私たちのしていることは、正しくない。きょうは、良い知らせの日なのに、私たちはためらっている。もし明け方まで待っていたら、私たちは罰を受けるだろう。さあ、行って王の家に知らせよう。」(口列王七ノ九)

これはアラムに攻められて風前の灯のイスラエルの民のなかでも最も哀れな重いツアラアト(皮膚病患者)がいた。彼らはだめで元々と言う気持ちでアラムの陣営に食べる物求めて行きました。ところがアラムの軍勢はもぬけのからです。神様が恐れをあたえたので持ち物を全部捨てて逃げた為です。ツアラアトの人たちは一生困らないほどの財産を手に入れて喜びましたが、我に返りこれを今まさに餓死しようとしている同胞にも分かち合いたいとの憐れみの思いが心に溢れてきました。伝道とはこういうことです。かつては地獄の火に滅ぼされるものが、イエス様の十字架のおかげで、罪を赦されたのみならず、永遠の生命と富を与えられた。このとてつもない祝福と宝は一人だけ持つのではなく、家族、兄弟、親族、同僚、友人、隣人全てのひとに紹介するのは当然のことではないでしょうか。これらは罪を赦され永遠の生命をあたえられているクリスチャンの愛の心より生まれてきます。

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 神戸長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一四年一月五日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「プリスカとアクラ」

「キリスト・イエスにあつて私の同労者であるプリスカとアクラに
よろしくと伝えてください。」(ローマ一六ノ二)

牧師一人で主の教会は建設できません。イエス様は同労者を
与えてくださいます。パウロはコリントに来た時、ローマか
らユダヤ人追放命令で避難してきたアクラとプリスカ夫妻
と巡り合い、天幕造りの同業者として生活を助け、信仰の同
労者として教会を建設した。パウロがシリアに出発するのに
同行して、エペソでパウロは二人を残して自らカイザリヤに
上陸してエルサレムの教会に挨拶をした。その後アンテオケ
に戻り再び第三次伝道を開始下。その時エペソにアポロとい
う雄弁家が来て熱弁をふるったがヨハネのバプテスマした
体験していなかった。それでプリスカとアクラはアポロにイ
エスのことを正確に伝える。同労者はパウロのもつてい信仰
と霊的体験を人に与える者である。わたし達も牧師の同労者
となり、真の教会を建設しましょう

二〇一四年一月八日午後七時 祈祷会 山本牧師

「バビロンの滅亡」

「万軍の主はこう仰せられる。『バビロンの広い城壁は、全くくつが
えされ、その高い門も火で焼かれる。国々の民はむなく苦し、諸
国の民は、ただ火に焼かれるために、疲れ果てる。』」(エレミヤ五
一ノ五八)

エレミヤはユダヤの同胞にバビロンに降伏するように預言を
語ったために、全国民から迫害された。しかし、彼はバビロン
も神様の裁きを受けることを預言した。ヨハネの黙示には大バ
ビロンの滅びを預言している。これは当時のローマ帝国のこと
である。バビロンとは神に敵対する悪魔の勢力である。つまり

神を否定した現代の文明と文化である。これらは滅びる。永遠
に立つのは主イエス様のみ国である。

一月、二月行事計画変更

一月二六日(日)小段太一兄召天一〇周年記念礼拝 午前一〇時

二月 二日(日)大串 昇兄召天 三周年記念礼拝 午前一〇時

二月の牧師会

二月一日(月) 午前一〇時

喜びと自由の路傍伝道

今年から路傍伝道は信徒伝道者や他の兄弟姉妹たちと午後にお
こなっています。なぜなら、午前は牧師のデポジションの時だ
からです。場所は三宮セント街の東側そごう側や元町駅南広場
です。特に感じたことはキリスト教の異端エホバの証人(日本
系)、統一教会(韓国系)、全能神教会(中国系)その他、時計のア
ンケート調査と称して男子若者に近づく若い婦人たちが活発に
伝道しています。何故異端がこのようにキリスト教会顔負けす
るほど活躍しているかと言うと第一にイエスキリストの御再臨
がもうそこまで近づいているから、サタンは自分の滅びの近い
ことを覚えて必死にもがいているのです。最近も路傍伝道の時
に私の名刺を渡した方から電話があり、主の再臨について質問
がありました。私は真のクリスチャンは今日イエス様が御再臨
されても恥ずかしくない信仰生活は勿論、社会生活をおくらな
ければならないことを話しました。異端は信者をマインドコン
トロールをして全生涯と全財産を組織のためにささげるように
仕向けます。まことのキリスト教信仰は主イエス様の十字架の
贖いによる罪の赦しと神の前に義とされて聖霊を注がれ永遠の
生命とキリストの心をいただき、キリストの救いを人々に知ら

せる証人として全生涯をおささげします。強制や義務でなく感謝と喜びによるものです。そこには恐れや恐怖や裁きは存在しません。伝道することすら、義務でなく、すべてが自主でできであり、この喜びを私一人で取り込むのはもったいないという止むに止まれない思いからするので。隠すことの出来ない喜びの故です。

教団二〇一四年計画

- 二月一〇日(月) 牧師会
- 三月 神学院入卒式
論文発表 牧師会
- 四月二〇日(日) イースター
- 五月五 日(月) ペンテコステ聖会
午前、午後、夜、
- 六月一日(日) 合同召天記念会
牧師会
- 七月 牧師会
韓国学生四国集会
- 八月 仮庵聖会
- 九月二三日(月) 牧師会
- 十月 ヨベルリバイバル
賛美 水野夏子姉
説教午後 足達牧師
夜 山本牧師
- 十一月 創立六六周年記念会
午後 牧師会

宣教⑤

第三課 歴史の主人公になられた神

―世界宣教の歴史―

三・二・二 修道院による宣教

b) ベネディクトゥスの修道院運動の刷新

ジェローム、アンブローズ、アウグスティヌスといった修道士によって修道院制度が拡散、普及していき、五世紀にはヨーロッパの全教会に定着した。しかし修道院運動は次第に堕落していき、ベネディクトゥスは修道院改革運動を起こした。彼は修道士たちに清貧、貞潔、服従を誓わせ、修道士の第一の任務は礼拝、第二の任務は労働と勉強であるとの原則を立てた。単純な生活、選挙による修道院長選出など、彼が作った修道会則はベネディクトゥス戒律と呼ばれ、西方教会における修道制度の土台となった。

c) 修道院の役割

修道院は祈り、敬虔な生活、学問、労働など、修道士の訓練センターの役割とともに、建築、農学、医学など西欧の学問と文化の保全機能を担った。私たちが学問や技術(染色、石工技術、織物、橋の建設)の面で古代社会について知っている大部分は、修道士の学識がなければ不可能だったろう。修道院運動は教会をリバイバルさせ、中世の宣教活動の源泉となった。

(ワイ・ミッシェンより)

第十二回癒し五〇日連続祈禱

二月七日(土)～一月五日(土)

午後一時～午後時半

(祈りの後、楽しいティーで休憩)

場所 教三階(気軽に参加して共に祈りましょう)